

令和6年度 家庭科実践・研究計画

部 員	○小室 真紀
-----	--------

研究テーマ
よりよい生活を創り出すために、必要な知識と技能を用いて自ら実践しようとする子どもを育む学び

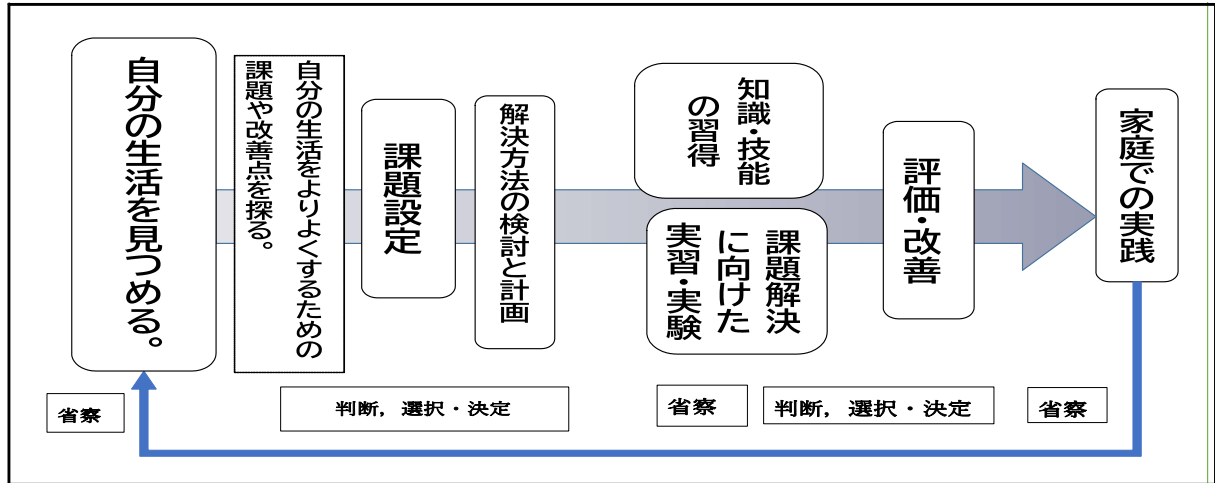
1 研究テーマについて

家庭科の学習では、自分の生活を見直したときに生まれる問いや気づきが課題となり、そこに向かって解決方法を考え試行錯誤していく。解決の方向にはどんな知識が必要なのか、どんな技能を用いていけばよいのかを手繰り寄せ、生活をよりよくするための最適解を判断し実践しようとする姿を目指している。

2年次は、実験等の体験的な活動を通して見えてきた科学的な面と生活とを擦り合わせることで客観的に事象を捉え、概念化をする姿が見られ、新たな気づきが「学びのものさし」となってきた。それによって獲得した「学びのものさし」を試したり感じたりできる学習の幅を広げていくことが課題となった。

まずは自分の生活を見つめ直すことで課題を見いだす。そして課題解決に向けて方策を考え、体験的・協働的な学びを通して、自分と友達的生活や考えの中に類似点や相違点、新たな価値を発見する。この発見が「学びのものさし」の更新と言える。そして、生活における最適解は何かを判断し、自分の生活をよりよくするための方法を選択・決定できる力と、必要な知識や技能を用いて実践しようとする態度を養うことのできる授業展開に取り組んでいく。

- 家庭科で目指す自律した子どもの姿
- ・ 生活を見つめ直したとき、多様な視点から問いをもち解決方法を考え、実践しようとする姿。
 - ・ 実験等の体験的活動を通すことで、日常生活の基礎的な知識及び技能の必要性を理解し、積極的に生活をよりよくしようとする姿。



図：家庭科における自律した学習者の学びのプロセス

2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

- 自分の課題を次の学びや家庭での実践につなげるための手立て
- 協働的な学びを通して得られた結果や考えの類似点や相違点を比較・検討する省察場面を位置付けた学習活動の工夫。
 - 新たな気づきや考えを導く実験等の体験的な活動場面の工夫。